

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地1		
自己評価作成日	平成28年5月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、桜梅桃里基本理念のもと昨年の目標「私達は皆様がいつも笑顔で楽しく生活できるよう家庭的な温かい雰囲気を作っていきます」。さらに今年は、「節度ある丁寧な言葉で語りかけていきます」を、新しい目標として支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が伸び伸びと暮らしており、一人ひとりの思いや生活歴を大切にされた支援に取り組んでいる様子が窺えます。馴染みの関係や共同生活の中でその人らしい暮らしの継続に努め、家庭的な雰囲気を大切にしながら生き活きと過ごせる様支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念をホームの見やすい場所に 掲示しかつ「優しい介護」とはを話し合い介護している。	年度毎に目標を定め、職員会議を含めカンファレンスの時など理念の確認と共有に努め実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年末に地域の方々に声かけて多くの方の協力により石臼で餅つきをする事が出来た。	運営推進会議を活かしながら地域との繋がりに努め、さまざまな行事を通しての交流を行っています。	これからも地域の一員として、日常的な交流へとつなげていかれる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前はなかった回覧板が、地域の情報源として回ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の方からグループホームの活動をもっと報告するようにと提案をいただいている。	年6回の運営推進会議を通して地域に密着したグループホームとして情報・意見など活かしながらサービスの向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等に地域包括支援センター担当の方に参加していただき、地域の方々にも情報を発信していただいている。	地域包括センターを通してさまざまな情報・相談・連絡など相方の協力関係が築ける様、運営推進会議等活かしながら連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスにて勉強会の項目に取り入れ身体拘束をしないケアを実践している。	日々の支援の中で知らず知らずの内に拘束になるような事をしていないか、注意しながら客観的にみるなどし、拘束しないケアの実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が知らず知らずに行われないようにカンファレンス等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する情報を共有して現在活用している現状を理解する。後見人と入居者様の関係をスムーズに行われるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に契約内容の説明を充分分かるようにし、入居後でも不明な事があればいつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時に運営に関する要望を聞く機会を持ち入居者様の希望に沿った生活が出来るようにしている。	訪問時や運営推進会議で意見や要望を聞き、入居者、家族、職員などコミュニケーションを大切にし、日々の支援に活かし反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月一回のカンファレンスで業務の見直しスタッフ全員の意見を聞くようにしている。	常に職員の思いや要望を聞く雰囲気づくりに努め、意思の疎通を図りながら意見の反映に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の本社兼グループホーム事務所では代表者が常にスタッフに声かけや挨拶を交わし意見の言える職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報等を休憩室にファイルしたり見やすい場所に掲示したり定期的に雑誌を購入して自己啓発に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を常に持ち知り得た研修内容をカンファレンス等で勉強会に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のそばに寄り添って有限無限の思い言葉を傾聴し本人の気持ち望みを受容し安心できる居場所作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様同様家族の方にも不安に思われる気持ちを良くお聞きしご希望や過去の様子、趣味等の情報を得ながら気持ちに沿うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族の思いをお聞きし希望に添えるように工夫しながら穏やかにお過ごしただけのように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去経歴はおのおのの違いがある。より拝聴しながら切磋琢磨しお互いに尊敬し尊重できるように協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族方と利用者様の気持ちが離れてしまわないように出来ること等をお伝えしながら面会時行事の参加のお知らせをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある地域の話とか行事等をテレビや新聞を読んで思い出としていただきながら又季節の外気に触れながら積極的に外出する支援をしている。	入居前の地域、社会とのつながりを、一人ひとりに合わせ、個々を大切にした関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いに認め合えるように各々を尊敬の思いで接しその方々に合った話題を取り上げ孤独感を持たないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わった後もその後の様子をお尋ねしたり相談して支援に応じる姿勢を示しながら経過を見守ったり必要に応じてフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人個人に合った声かけをし表情、事の摂取状況等を確認しながら自己決定しやすいように支援する事を心がけている。	日常のさまざまな場面で本人の意向や現況の把握に努め、その人らしい暮らしを大切にしたい支援を心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様が安らかに自分らしく暮らしていける事を支援している。愛着のあるものを身近に置き安心していただきながら生活の中でその人らしい生き方が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が過ごしやすい空間を作り多くの利用者様の笑顔が出るような環境作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一個人の考えではなく利用者様を良く知る関係者が気づきやアイデアを出し合い話し合った結果をもとに計画を作成している。	一人ひとりの健康状態、生活のリズムなど細かく情報を収集し又、家族からの要望、医療面での注意事項などを下に、現状に沿った介護計画の作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の生活リズムを知り少しでも変化があればその内容を記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調を考慮しながらその時々ニーズに応じて利用者様に合った柔軟なサービスを取りこんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントに積極的に参加、地域の方々から多くの声かけを頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医と看護師、看護師とスタッフがいつも密に連絡を取り合って家族利用者が納得いくように支援している。	受診、往診など本人、家族の安心につながる様支援し、適切な医療が受けられるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の変化を看護師に報告相談して適切な対応をするように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療が終わり次第出来る限り早期の隊員が出来るように利用者さまご家族病院と連携をとって支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところ重度化された入居者様はおられないが今後いつ対応が必要か看護師スタッフがチームで勉強を進めている。	入居の際「看取り介護サービス対応指針」を書面で説明しグループホームでの看取りについて方針を共有し、終末期、重度化に向け体制を備えるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応のためAEDを近くに設置していつでも利用できるように体験また勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の利用者様との避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域住民の方へご協力を呼びかけている。	2Fのグループホームみやす一番館と合同で主に火災を中心とした避難訓練を定期的に行っています。住宅地よりやや離れた場所にあり、地域との協力体制に至っていないのが現状です。	自然災害に備えた災害時のさまざまな状況も含めた対策、避難訓練など地域と連携を取りながら安全、安心に向けた取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に多くのイベント参加時の声かけ誘導時は自己決定しやすい言葉かけをしている。	自立した生活を大切にした支援を心掛けながら、共同生活の中で一人ひとりの個性と集団の中の自由とのバランスに気を配りながら節度のある声掛け対応に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベント食事等でスタッフの決めたことを押しつけないで利用者様自身で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活ペースを大切に、利用者様様に合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ季節に合わせた服装が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ等、その人その人が出来る事を手伝ってもらっている。	食事の支度、準備の時、その都度声掛けや自主的に参加する入居者と一緒にそれぞれの好みや力を活かしながら楽しい食事になる様努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量を記録し健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の状態に応じた援助法で口腔ケア声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録しその人の排泄パターンを確認しながら誘導や声かけをしている。さりげない誘導と対応で入居者様個々に沿った排泄支援に努めている。	一人ひとりの力や習慣を活かして自立した排泄支援に努めています。夜間もトイレでの排泄支援を大切にしたい取り組みが窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト牛乳等の摂取栄養バランスの良い食事水分をしっかりとるなどして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて夜間入浴を取り入れたり一人で入って頂いたりスタッフは外で見守る等安心感を持っていただくよう工夫している。	生活習慣から夕食後の入浴を希望する入居者もあり個々に添った入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し夜間良民出来るよう生活リズムを整える支援をしている。眠剤を飲まれている方には睡眠状態歩行状態を確認して転倒防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成いつでも内容が確認できるようにしている。服薬時には、二人の目で確認した後、服薬が確実に出来ている事を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の能力に応じ食事作りの手伝い食事後の片づけ洗濯干し洗濯たたみ生き甲斐作りを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数を考慮し入居者様のご希望に出来る限り添えるように支援しご家族の協力を頂きながら外出できるようにしている。	生活歴などから行きたい場所を探し喜びのある外出支援を行っています。又、四季折々の外出、家族との買い物など楽しみな外出支援に取り組んでいます。	これからも個々に添った支援と家族も参加した外出支援に取り組み、コミュニケーションを深めて行かれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方の理解を得て自分で管理してもらったり、お預かりしているお金はスタッフ二名で管理ノートを活用して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に出来る限り添えるように電話又は手紙を出していただくよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険を防止するために移動する空間を出来るだけ確保している、また設置する物は必要最小限としている。	心地よく過ごせる様、音や温度に気を配りそれぞれ入居者の居場所、食事の時の椅子の配置など思い思いに過ごせる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置に気を配り思い出の写真を飾ったり季節感を出す為に生け花を飾り心が休まるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みを尊重し特に移動の時の安全に注意を払い居心地の良い居室作りにも努力している。	持ち物や使いなれた布団など暮らしの習慣に配慮した居室づくりでその人らしい生活の支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を最大限生かせるよう補助用具を活用したりきめ細かい見守り等で生活環境に応じた支援をしている。		